



資料4 - 2
第26回
宇宙科学・探査小委員会
H31.1.15

第19回宇宙科学シンポジウム 開催結果について

2019年1月15日
宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所

シンポジウムの趣旨

理学・工学両分野の研究者が集まって、宇宙科学について広く議論する場

衛星・探査機・ロケット・大気球により得られた成果をはじめ、現在開発中または提案されている計画・ワーキンググループの報告、ならびに衛星・探査機基盤技術について行われている研究の現状や将来構想などを共有し、今後の宇宙科学研究の進む方向について議論し発信するためのプラットフォーム

今回のシンポジウムでは、2030年代以降の宇宙基本計画工程表のあるべき姿を理工学研究者コミュニティの側から考えるため、持続的かつ発展的な理工学研究のために望ましいミッション機会構成(規模、頻度、打ち上げ手段、国際協力、大学連携等)と、日本の宇宙理工学ミッション全体をカバーするストーリーの二本柱を中心に議論を行った。また、宇宙科学研究が将来にわたって継続して発展し続けるために、理学、工学双方で問題意識を共有し、分野を超えた相互交流をはかった。

概要

日時： 2019年1月9日(水) 9:50-17:55 1月10日(木) 9:00-17:40

場所： JAXA相模原キャンパス

主催： 宇宙理学委員会, 宇宙工学委員会, 宇宙科学研究所

参加者： 約240名 理化学研究所などの研究機関、大学、行政、産業界、マスコミなどから多くの参加があった。

<特別セッション>

- ・宇宙科学プログラムの最新Topics

<企画セッション>

- ・工程表の先のミッション
- ・戦略的中型計画への提案グループの活動報告

<パネルディスカッション>

- ・宇宙科学の将来ビジョン

<一般セッション>

- ・公募型小型計画検討グループ報告
- ・国際宇宙探査
- ・その他(ポスター発表153件)



口頭発表



ポスター発表

主な成果・議論

- 宇宙科学プログラムの最新トピックスとして、運用中・開発中のプロジェクト、ダウンセレクション(候補選定)中の戦略的中型計画/公募型小型計画、将来構想計画についての進捗、検討状況、また国際宇宙探査の検討状況について発表があった。
- パネルディスカッションでは、宇宙科学研究所が掲げる「太陽系科学のビジョン」「宇宙物理学のビジョン」「宇宙工学のビジョン」についての報告があり、今後の宇宙科学の方向性について意見交換が行われた。
- 松井孝典宇宙政策委員会委員長代理からは、宇宙科学のプログラム化・フロントローディングという新しい考え方について、中須賀真一宇宙政策委員会委員からは、超小型探査機による宇宙科学探査のビジョンについて、村山齊カブリ数物連携宇宙研究機構長からは、LiteBIRDに期待される科学的成果と発展性について発表があり、参加者と活発な議論が交わされた。